R431物語　第３回

今回の主人公：自転車

（タクワサイクル　松江市西浜佐陀町）

岩田英作

■僕と一緒に、店長の多久和富義さん（右）と次男孝義さん。

ピナレロ。これが僕の名前。イタリア生まれのマウンテンバイク。自分で言うのもなんだけど、ロードレースで磨き上げられた性能はもちろん、洗練されたデザインもさすがイタリアって感じだ。店長の多久和富義さんの僕をかわいがるさまときたら、まるで孫かわいがりのおじいちゃんみたいだ。

多久和さんがお店を持ってかれこれ 25 年になる。多久和さんのお父さんも松江市内で自転車屋さんを営んでいて、自然の成り行きで家業を継ぐことになった。もともとはママチャリのような一般的な自転車を扱っていたけど、20 年ほど前にマウンテンバイクが登場して、多久和さんは「これだ！」と直感、以来数少ないマウンテンバイク専門店として山陰両県からお客さんが集まる。

マウンテンバイクは高いものになると 100 万円を越えるものもあるけど、近頃ではお手頃な普及版も充実してきて求めやすくなった。それに自転車はなんと言ってもエコと健康増進にはもってこいだ。おまけに乗れば乗るほど脳が活性化されて頭もよくなる。ほんとだよ。

年々僕たちを見に来るお客さんも増えて多久和さんも忙しくなる一方だけど、３年前から次男の孝義さんが手伝ってくれるようになって多久和さんも一安心だ。

多久和さんは、ただ僕たちを売るだけじゃない。いろいろなサイクリングを企画して、お客さんといっしょに楽しんでいる。城山や宍道湖岸を気ままに走る「松江再発見、朝のポタリング」、トロッコ列車に自転車を積んで奥出雲まで行き、そこから自転車でおろちループを一気に下る「トロッコで快適 65㎞下りツーリング」。加賀で汲んだ日本海の海水を、中国山地、瀬戸内海、四国山地と自転車で走り抜けて高知県桂浜で太平洋に流すというなんともユニークな企画も行っている。道中、今治市内の焼鳥屋に寄るのも恒例で、「そこの焼鳥のうまさと言ったらほかでは味わえん」。多久和さん、この時ばかりは僕のことを忘れているようだ。

R431 に沿って走る一畑電車。その車輛に自転車が積み込めるようになったのも実は多久和さんのアイディアだ。毎年一畑電車を利用したサイクリングを行っていて、その縁で一畑電車に話を持ちかけたところ OK となったそうだ。多久和さんは僕にまたがりながら、活性化された脳でいろんなアイディアを思いついているんだね。

今、エコツーリズムの気運に乗って、自転車を利用したまちおこしの企画が全国的に増えている。もちろんわが主人の多久和さんも大いに関心がある。このあいだも僕のチェーンに油を差しながら多久和さんはこう言った。「松江市はリサイクル都市日本一をめざしているが、わしに言わせればサイクル都市日本一だ。がはは」。さすが多久和さん。日本一めざして、これからもいっしょに走ろうね。

（いわた・えいさく／総合文化学科教員＊日本近代文学）

（奥出雲町八川）

のんびり雲　第６号　2012

巻頭エッセイ◉故郷が奏でさせてくれる音楽
山本恭司　1

特集◉喫茶店

＜あらびかコーヒー＞で楽しむ
六子ののんびり＋ほっこりライブ　2

創業三十四年目を迎えた
あらびかコーヒー（松江市）　7

あっちゃんと、喫茶ＭＧ（松江市）　10

物語はここから始まった。
珈琲屋　吹野（米子市）　14

カレーの国、鳥取に愛された
喫茶べニ屋（鳥取市）　17

六十年目を迎える老舗喫茶店
ヨシタケ（益田市）　20

喫茶店の思い出　23

缶コーヒー誕生　26

山陰の名物まんじゅう大試食会　30

のんびり、米子の和菓子を味わう　34

ニューヨーク滞在記　38

ウッドクラフト「汐や」を訪ねて　42

故郷を撮り続ける
アタゴ写真館（出雲市平田町）　46

カルチャーショック島根　49

商店探訪⑦和田翠雲堂（松江市）　52

松江石碑巡り　56

島根半島をゆく
――守り続けたい美しい自然と文化――　58

島根の宝！来待石！　62

探検！倉吉のトイレ　66

一日牧場体験　伊藤牧場（出雲市佐田町）　70

街のおもしろ文化観察学入門⑦
松江市石橋町編　74

（本の紹介）今岡弘延編著『なつかしの松江』　78

（本の紹介）周藤利夫『さくら、良き友よ』　79

温泉津温泉の旅　80

島根県の伝統工芸・八雲塗
漆芸のわたなべ（出雲市平田町）　84

本誌『のんびり雲』を発行している
総合文化学科とは、こんな学科です。　88

編集後記　90

Ｒ４３１物語③自転車（裏表紙裏）

（表紙：島根県立大学短期大学部松江キャンパス）